

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期	
寡	カクない やもめ									
		作册嗚卣 毛公鼎	睡虎地秦簡	説文・宀部 段注・宀部	馬王堆 敦煌漢簡	燕平石経 曹全碑		干祿字書 五経・宀(説文)	瑠玉集 龔替指歸	
察	サツ あきらか しる みる									
		叔叔師察簋 睡虎地秦簡	説文・宀部	馬王堆 乙瑛碑	智永千字文	蘭亭序	冠治墓誌	九成宮	五経・宀部 龔替指歸	
寧	ネイ なんぞ むしろ やすい									
		甲骨 金文	睡虎地秦簡	説文・宀部	馬王堆	曹全碑	集字聖教序	張猛龍碑	九成宮	王勃詩序
寧										
		殷・金文			居延漢簡	曹全碑			伝空海急就草	
審	シン つまびらか									
		金文	里耶秦簡	説文・采部	馬王堆	張景道土牛碑	唐・書譜	王羲之・何如帖	五経・采部 法華義疏	
寮	リョウ つかさ									
		甲骨 毛公鼎		説文・宀部	魯峻碑	十七帖	鄭羲下碑	皇甫誕碑	九経・宀(説文)	王勃詩序
寵	チョウ									
		金文	睡虎地秦簡	説文・宀部	夏承碑	智永千字文	高貞碑	温彦博碑	五経・宀部 龔替指歸	

【寡】干祿字書の〈通〉が五経文字では〈石経〉に訂正されている。  
【寧】当用漢字表に印刷されたのは「寧」、正誤表で訂正されたのが「寧」。「寧」は戦前からあったようだ。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ころこ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考	
寮	寮	寮	寮	寮			寮	寮				寮	寮
				寮								寮	寮
寮	寮	寮	寮	寮			寮	寮	寮	寮		寮	寮
				寮								寮	寮
寧	寧	寧	寧	寧			寧	寧	寧	寧		寧	寧
				寧								寧	寧
寧	寧	寧	寧	寧			寧	寧	寧	寧		寧	寧
				寧								寧	寧
審	審	審	審	審			審	審	審	審		審	審
				審								審	審
寮	寮	寮	寮	寮			寮	寮	寮	寮		寮	寮
				寮								寮	寮
寵	寵	寵	寵	寵			寵	寵	寵	寵		寵	寵
				寵								寵	寵
寵	寵	寵	寵	寵			寵	寵	寵	寵		寵	寵
				寵								寵	寵





親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
尋	ジン たずねる ついで ひろ			尋	尋	尋	尋	尋	尋
尋				尋	尋				
尊	ソン たつと たつとぶ とうとい とうとぶ	尊	尊	尊	尊	尊	尊	尊	尊
尊				尊	尊	尊	尊	尊	
導	ドウ みちびく			導	導	導	導	導	導
導				導	導	導	導	導	
小	ショウ おこ ちいさい	小	小	小	小	小	小	小	小
小				小	小	小	小	小	
少	ショウ すくない すこし	少	少	少	少	少	少	少	少
少				少	少	少	少	少	少

平安中期 から 室町	江戸版本 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
尋	尋	尋	尋	尋		尋	尋	尋	尋		尋 中国
尋	尋	尋	尋	尋							尋 台湾
尋											尋 香港
尊	尊	尊	尊	尊		尊	尊	尊	尊		尊 中国
尊	尊	尊	尊	尊							尊 台湾
尊											尊 香港
導	導	導	導	導		導	導	導	導		導 中国
導	導	導	導	導							導 台湾
導											導 香港
小	小	小	小	小		小	小	小	小		小 中・台・香
小	小	小	小	小							
少	少	少	少	少		少	少	少	少		少 中国・台湾
少	少	少	少	少							少 香港

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆書	隷書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
尖	セン とが る さ き 人①		説文不録						
尚	ショウ なお 常①		睡虎地秦簡 金文	馬王堆 曹全碑	十七帖	集字聖教序	高貞碑 九成宮	九經(口部)篆文	王勃詩序
尤	ユウ もつとも 人①		戦国・金文 郭店楚簡	武威漢簡 礼器碑陰				九經(口部)隸書	
就	シュウ ジュ つ つ け る な る 教6常①		睡虎地秦簡 説文編文	武威漢簡 石門頌	淳化閣帖	王獻之	鄭義下碑 等慈寺碑	五經・序	法華義疏
尺	シャク 教6常①		睡虎地秦簡	馬王堆 居延漢簡	智永千字文		元順墓誌 孔子廟堂碑	干祿・序	龔賢指歸
尻	コウ シリ 常①		説文・尺部	武威漢簡					
尻	③								
尼	ニ あ ま 常①		説文・尸部	史晨前碑 唐・書譜			太妃侯造像 史事帖	干祿(正)	法華義疏
									西狹頌 画図識文

【尚】1981年(昭和56年)に当用漢字表外から常用漢字表に追加された。説文解字では「八」部、九經字様では「口」部、康熙字典では「小」部に分類されている。九經字様では「小」の点が「八」になるものを(説文)、「ソ」になるものを(隸省)としているが、後漢の隷書に両方の形がある。康熙字典

では「ハ」の形。  
【尺】漢の隷書の時代までは、「尸」の左ハライが上の横線まで達しておらず、下の横線と接している。南北朝時代には、「尸」の左ハライが上の横線まで達している。漢字整理案によれば字典体では「尸」には3種あり、「刷」では左ハライが

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ころこ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
	尖	尖	尖	尖			尖		尖			尖 尖 香港 中国・台湾
	尚	尚	尚	尚			尚		尚			尚 中・台・香
	為	為										
	尤	尤	尤	尤								尤 中国・台湾
												尤 香港
	就	就	就	就			就	就	就	就		就 中国・台湾
												就 香港
	尺	尺	尺	尺			尺	尺	尺	尺		尺 刷 康熙字典部 中・台・香
							尺					屋 康熙字典部
	尻	尻	尻	尻			尻		尻			尻 中・台・香
	尼	尼	尼	尼			尼	尼	尼			尼 尼 干祿(俗) 中国・香港
												尼 台湾

上の横線に接し、「尺」では左ハライが一番上の横線と二番目の横線の途中から書かれ、「屋」では上から二番目の横線と接している。標準体ではこの三種を左ハライが一番上の横線に接する「刷」の形に統一したという。康熙字典の「刷」と「屋」を参考に掲載する。

【尻】2010年(平成22年)に常用漢字表に追加された。下部が「丸」になる異体字がある。漱石は「九」と「丸」の両方を書いている。藤原道長は「尸」に点をつけて「尸」のようにしている。